

進路指導室へようこそ2

前橋女子高校進路指導部

令和6年度 MJ 進路通信 第27号

令和6年9月26日(木)発行

■10月の進路行事について

2学期が始まりちょうど1か月が経過しました。来週からは中間考査。2学期の折り返しとなるこの試験をしっかり乗り切って1年間の後半戦に向けて勢いをつけていきましょう。

25日には3年生の大学入試共通テストの志願票の発送が完了しました。正式に受理されると10月25日までに確認はがきが送付され、12月14日までに受験票が届きます(例年通りの会場での受験ができるといいですね)。大学入試の手続きの第一歩が始まりました。

また、10月になると様々な大学の学校推薦型入試や総合型選抜入試が始まります。推薦入試や総合型選抜入試では、合否の判定に小論文や面接が課されることが多く、本校では該当学年の先生だけでなく、学校全体で添削指導や面接練習に対応しています。先陣をきって受験に挑む3年生の皆さんには、雰囲気のにまれることなく勝負してきてほしいと願っています。

10月は勉強に十分な時間がかけられる時期であると同時に、進路についても考える時間をとってほしいと考えます。1・2年生にも様々な進路行事が企画されていますので、積極的に活用して自分の目標を見定めるきっかけとしてください。



●現役医師による医学科セミナー (Career+)

10月21日(月)放課後に群馬大学医学部の医師で、本校OGの先生をお招きして医学科セミナー講座を開講します。医療に興味をもち、将来の目標として医学部を考えている1・2年生を対象にした講座です。詳しい要項は教室に掲示しますので、受講希望者はgoogleformにて申込みを行ってください(上のQRコードから手続きができます)。3年生も推薦入試対策として情報収集したい場合は参加可能です。



●スペシャリストガイダンス (2学年)

10月11日には2年生を対象にしたスペシャリストガイダンスが行われます。各分野の最先端の研究を行っている大学の先生をお招きし、最新のトピックスや研究

室で行っている研究等について講義をしていただきます。11の分野に分かれて設定された講座のなかから希望する2講座を選択して受講します。大学での学びや最先端の研究に触れる、またとない機会です。(写真は昨年度の様子)



●企業研究所・大学訪問 (1学年)

1年生では11月に首都圏方面の企業・大学を訪問し、見学する「企業研究所・大学訪問」が実施されます。見学の受け入れ先については、1学年団の先生方が手分けして開拓してくれました。通常では見られないような施設などを見せてもらえるようなところもあります。そして見学先への移動は各自で公共交通機関利用しての現地集合現地解散方式。列車の時刻や乗り換えなども自分たちで調べて会場に向かう、ちょっとした大冒険ですね。本校OGの先輩が案内してくれる大学もあります。(写真は昨年度の企業見学の様子)



■大学入試を知る (第7回: 女子枠って?)

2024年度の入試において、東京工業大学が推薦入試に「女子枠」を導入し、大きな話題になったことを覚えている人もいると思います。今年度の入試においても「女子枠」を導入する大学は増加の傾向にあります。この、大学入試における「女子枠」。いったいどんな制度なので

しょうか。

2025年度入試で女子枠を新設・拡大する大学（抜粋）	
大学	詳細
室蘭工業大	女子枠の総合型選抜（15人）を新設。
福島大	共生システム理工学類で女子枠の総合型選抜（8人）を新設。
茨城大	工学部で女子枠の学校推薦型選抜（15人）を新設。
東京工業大 （東京科学大）	女子枠の総合型選抜および学校推薦型選抜を合計143人に拡大。
新潟大	工学部（知能情報プログラム）で女子枠の学校推薦型選抜（5人）を新設。
滋賀大	データサイエンス学部で女子枠の総合型選抜（20人）を新設。
和歌山大	システム工学部で女子枠の学校推薦型選抜（10人）を新設。
長崎大	工学部と情報データ科学部で女子枠の学校推薦型選抜または総合型選抜を新設。
佐賀大	理工学部で女子枠の学校推薦型選抜（3人）、総合型選抜（12人）を新設。
宮崎大	工学部で女子枠の学校推薦型選抜（14人）を新設。

女子枠が設けられる背景の1つには、多様性の確保というのがあります。女子枠のある学部の多くは理工学部系統。特に工学部系統では、伝統的に男子学生の占める割合が高く、以前より女子学生にとっての敷居の高さに加え、多様性確保の課題が指摘されていました。また、多くの企業が大学に寄せる求人の希望として、「優秀な女子生徒が是非ほしい」というものが近年激増している、という話を大学関係者からよく聞きます。それは商品開発や研究活動において、特に女性目線のアイデアや仕事への取組みの姿勢が、企業にとって欠かすことのできない（そして、極めて不足している）重要な財産になっているからといえます。

一方で、女子生徒がさまざまな大学や学部を選択するにあたり、多くのバイアス（もしかしたら、自分自身でも気づいていないかもしれない）により今でも進路決定に少なからず制約が生じているというデータもあります。「女子枠」導入には現在も賛否両論ありますが、そんな中でも多くの大学が導入に踏み切っているのは、それだけ大学や企業が未来の皆さんの力を必要としていることの証でもあります。

女子枠を設ける入試方式は、今のところ総合型選抜や学校推薦型選抜が中心であり、志望理由書や面接などを通して、受験生の適性も丁寧に見ていく、というスタンスの現れでもあります。女子枠を有効に活用して、自分が活躍できる場所を探していく、というのも進路選択の1つになりつつあります。



■先輩たちは10月をどう勉強していたのか？

日々の気温に反比例するように、勉強に熱が入ってくる秋。この時期の心がけとして、前女の先輩方はどんな工夫をしていたのでしょうか。昨年の通信の再掲となりますが、スイッチを入れるきっかけになればと紹介します。

（東北大学 K 先輩）

季節の変わり目で勉強にスイッチが入った人も多いのではないかと思います。参考までに、私が各学年でこの時期をどう過ごしたかをご紹介します。

高1の2学期には、既に理系に進むと決めていましたが、主に時間を割いたのは「**苦手だった国語の学習**」です。学校の課題だけでも私にとってはかなりの量でしたが、それを丁寧にこなしつつ、先生方に教えて頂いた参考書等を使って勉強しました。「**何をやるかより、学習習慣をつけることを大事にした**」ことで読解力が上がったと感じます。

高2の2学期には、「**国数英を仕上げることに執着**」し、特に数学には多大な時間を割いた記憶があります。2年3学期くらいから理科や社会に本腰を入れられる3年になって若干余裕が生まれるので、この時期の使い方は大事だと思います。

高3の2学期には、ほとんど授業が終わるので、「**今までの復習を兼ねた問題演習が中心**」でした。理系科目以外にはほぼ時間を使いませんでした。理科は最後の方の範囲までもれなく身につくよう、今まで通り焦らず丁寧に学習することを意識しました。寒くなったり出願が始まったりで、精神が安定しづらい時期だと思いますが、計画と振り返りを怠らず冷静に過ごすとうれしいです。苦しい時は、家族ではなく友達や先生に不安を聞いてもらっていました。皆さん頑張ってください!!

（明治大学 Y 先輩）

受験勉強を頑張る3年生のみなさん、毎日お疲れ様です。受験期の心持ちについて書かせていただきますが、少しでも励みや参考になれば幸いです。

私が受験期を過ごした際、常に自分に言い聞かせていたことは、「**自分がやってきたことに自信を持つ**」ということです。この時期、点数などの結果ばかりを気にしてしまいがちですが、今までの積み重ねにも目を向けてほしいと思います。自分を振り返ってみて、後悔の気持ちなどを抱くかもしれませんが、それだけではなく、自分が努力したことや工夫したことも思い浮かぶはずですよ。自分の頑張りを認めてあげながら、これからもとにかく“前向きに”走り続けてください。それと、健康は何よりも大切です。